

②文化と文学の本郷コース

所要時間 約2時間半/歩行距離 約3km

このコースでは、日本の近代文明の発信地であった東京大学と、明治の近代文学者たちの足跡を訪ねて本郷界隈を周遊散策していきます。



「東京市本郷区全図 明治35年
(文の京デジタル文庫)」



Google map 2020年

東京大学赤門 文京区本郷 7-3-1

文京区本郷のシンボルともいえる、東京大学の赤門をご案内いたしましょう。

現在の東京大学本郷キャンパスの敷地は、江戸時代、その大部分が加賀藩前田家の江戸屋敷でした。赤門は、当時、最大の外様大名であった前田家に、11代将軍徳川家斉のご息女である溶姫がお輿入れになった時（1827年）に建立されました。国の重要文化財に指定されています。



写真提供文京区



明治維新を迎え、この屋敷地は、新たな教育機関となった東京大学に生まれ変わります。

構内では、夏目漱石の小説『三四郎』の舞台になった育徳園心字池や、大講堂（安田講堂）をご覧ください。（写真提供文京区）

～本郷界隈へ～

さて、江戸時代と明治時代の東京大学に思いをはせた後には、近代文学発祥の地ともいわれる本郷の街をご案内いたします。

観光ガイドは、入り組んだ路地を右に左にと曲がりながら皆さんを明治時代の文豪たちが住んでいた場所へご案内いたします。



徳田秋声旧宅 文京区本郷 6-6-9

この時代の文豪たちは、何をどう書くべきか悩んでいました。その一つの潮流に自然主義文学があり、徳田秋声という代表的な作家が現れました。

※旧宅については、今でもご家族がお住まいですので、通常、中は非公開です。

徳田秋声

国立国会図書館デジタルコレクション

『現代小説全集 徳田秋声集』

新潮社 大正 14 年





住宅街の中を進みます。
明治時代の文豪たちも
歩いた道です。

～石川啄木の足跡を訪ねて～

石川啄木は、この本郷周辺で引っ越しを繰り返します。
同郷の先輩金田一京助の熱い男の友情には、明治時代の人の情熱を感じられるでしょう。
このコースでは啄木旧居跡を三か所巡ります。

蓋平館別荘旧跡 文京区本郷 6-10-12



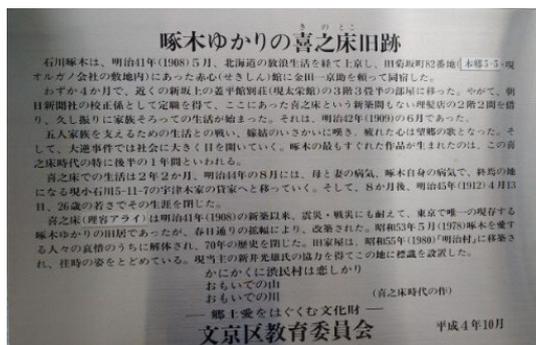
明治 41 年、新築まもない蓋
平館別荘に移った啄木は、こ
の地で「鳥影」の執筆を行いま
した。
なお、当時の建物は昭和 29 年
に焼失しました。

赤心館跡 文京区本郷 5-5-6



文学の志止みがたく待望の執
筆生活に入った啄木。
多くのすぐれた短歌を作りま
した。

喜之床旧跡 文京区本郷2-38-9



喜之床2階は、明治42年、初めて東京に家族を呼び寄せて一家で暮らした場所です。

……ご参考……

本郷の後に移り住んだ啄木終焉の地は、同じ文京区内の小石川にあります。

石川啄木終焉の地歌碑・顕彰室

【所在地】文京区小石川5-11-8

《石川啄木》

写真 文京区HPより



～明治の文化人たちの定宿～

菊富士ホテル跡 文京区本郷5-5-16

多くの文豪たちや、文化人たちに愛された菊富士ホテル跡のご案内です。

きっと見たことがある、聞いたことがある名前とたくさん出会えますよ。

竹久夢二『黒船屋』

「竹久夢二伊香保記念館所蔵」

[竹久夢二伊香保記念館 HP はこちら](#)



本郷弓町教会 文京区本郷 2-35-14



大正15年にたてられた鉄筋コンクリートブロック造りの教会です。
窓のステンドグラスを美しくご覧いただけます。



文京区保護樹木 くすのき

文京区内で一番大きな樹木がマンションとビルの谷間に立っています。これも街歩きならではの風景でしょうか。

文京区ふるさと歴史館 文京区本郷4-9-29

ご希望により、文京区ふるさと歴史館へ立ち寄ることもできます。

-----基本情報-----

毎週月曜日・第4火曜日休館

入館料100円（個人負担）

詳細はふるさと歴史館HP 参照

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>



私たち観光ガイドと
一緒に文の京を旅し
てみませんか！

[ガイドツアーのお申し込みはこちら](#)

構成・文/文京区観光ガイド
出典の記載のない画像は筆者撮影